

# じゅしゅう

## 顕証寺 河内蓮如忌法要 参拜

五月十一日(日) 久宝寺

御坊顕証寺さままで河内蓮如忌法要が開催されました。その名の通り、本願寺第八世宗主である、蓮如上人のご命日を縁として勤められております。(本来の命日は新暦の五月十四日です。)蓮如上人がお生まれになつた一四一五(応永二二)年は室町時代の初め頃です。その頃の本願寺は宗派の中心寺院という格を失い、青蓮院の末寺に過ぎず、衰退の極みにあつたそうです。



そんな中、本願寺門主を

継承された蓮如上人は、様々な土地を渡り歩きながら、お手紙(御文章)という方ほう法を使い浄土真宗を広められ、とうとう本願寺教団を日本有数のものとされました。また、日常のお勤めを往生礼讃偈おんじょうらいさんげから正信念仏偈しょうしんねんぶつげに変えられたのもこの頃で、浄土真宗の現代の礎を築かれた大切なお方なのです。久宝寺御坊顕証寺さまは蓮如上人の長男の順如さま、六男の蓮淳さまが住持されたお寺であり、その血脈はいまだ絶えることなく、本願寺との関係も深いことが知られています。現在でも河内一円の根本道場としての役割を担っております。

さて、この蓮如忌で有名なものといえば、法要中に行われる散華さんげという作法です。散華とは法要の際に、仏さまを敬い讃えるため、花びらや葉をまき散らすという作法です。元来、蓮などの生花が使われていたが、現在は蓮の形を模つた色紙が使われています。これを華葩けぼといひます。本願寺派本来の作法は、散華一回につき華葩一枚を、ハラハラと舞い落とすように行います。けれども、顕証寺さまの蓮如忌法要は盛大に散華を行います。一枚ではなく一掴みの華葩を、できるだけ高く、できるだけ遠くに投げるようにまき散

第74号  
(通算414号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350



らすのです。しかも、華葩には様々な重さ違いの種類があり、落ち方に変化が生まれます。左の写真にもあるように、数十人の僧侶による散華は圧巻です。ぜひ来年の蓮如忌法要にはご参拝いただき、希有な法要に身を置いていただきたいと思っております。

### 浄覚寺ヨガ教室

・6月18日(水)  
10時~11時半  
・参加費500円

### 浄覚寺雅楽教室

・6月24日(火)  
19時~20時半  
・参加費1000円



以前の法要の様子

一々の華のなかよりは

三十六百千億の

光明てらしてほがらかに

いたらぬころはさらになし

親鸞聖人『浄土和讃』



# 御文章に聞く(第67回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

**一切女人章(五帖第十七通)**  
 それ、一切の女人の身は・後生を大事におもい・仏法をとうとくおもふ心あらば、なにのようもなく・阿弥陀如来をふかくたのみまいらせて、もろもろの雑行をふりすてて・一心に後生を・御たすけ候えと・ひしたのまん女人は、かならず極楽に往生すべきこと・さらに疑あるべからず、かようにおもいとりてののちは・ひたすら阿弥陀如来の・やすく御たすけにあずかるべきことの、ありがたさ・またとうとさよとふかく信じて、ねてもさめても・南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏と・申すべきばかりなり、これを信心とりたる・念仏者とは申すものなり、  
 あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていききたいと思えます。現代の私たちは、明治以来の近代的な教育体系の中で育ってきました。その生命観の基本は近代ヨーロッパの生命観といえます。それは「いのち」について考えるにしても、「もの」として見てしまいうようです。「いのち」は「誕生」によって始まり、「死」によって終わるという、すなわち、「はじめ」と「おわり」の生命観でした。ですから「死んだらしまいに」なってしまうのです。そして、客観的に証明できない「死後」は考えません。生命現象の問題と、「いのち」そのものをどう考えるかという生命観とを、同列に考えることはつしむべきことなので、とこが、現代人は生命現象としての「生」と「死」と、「生」と「死」を一つのものとして受けとめる「いのち」の生命観とを、混同してしまっているが故に「後生」や「浄土」という言葉が聞かれなくなってきたのでしよう。

# 仏教語辞典



大塚製薬が販売する殺菌成分配合の軟膏(第2類医薬品)。得度前に今まで有髪だった人がいきなり頭を剃ると出来物などを切つてしまい流血する場合があります。そんな時に塗ると良い。

オロナインH軟膏

『気になる仏教語辞典』  
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

# 編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。まずはお詫び申し上げます。毎月初めに発送しておりました「じゅこう」が大変遅くなってしまいました。六月一日に開催された「浄覚寺バザー」の報告を掲載して発送と考えておりましたが、懇意にお付き合いさせていただいている八尾市木の本の西光寺ご住職がご往生されたとの訃報をいただきました。さらには、その葬儀の会奉行(法要の統括責任者)を依頼されたため、作成が後回しになってしまいました。申し訳ありません。  
 六月一日に「浄覚寺バザー」を無事に開催させていただきました。今年もたくさんのご提供をいただきました。合計50,150円の売り上げとなりましたのでご報告させていただきます。門信徒会や仏教婦人会の皆さまには大変お世話になりました。(釋法道)

浄覚寺の公式LINEにぜひ登録ください。  
 デジタルで「じゅこう」をお届けします。

# 行事案内

日時・七月二十日(日) 十時〜十六時  
 行事・浄覚寺ごとも会「夏のじゅこう」  
 場所・長原浄覚寺

今年で二十五回目となる浄覚寺ごとも会「夏のじゅこう」です。恒例の流しそうめんをみんなで楽しみます。その他にも制作やゲームなど、たくさんの内容を準備しています。お誘い合わせて、ぜひご参加ください。

(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)